

談話

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/37932

筋神經ヨリモ官宰セラル故ニ頰筋神經ハ諸書ニ記載セル如キ純粹ノ知覺神經ニアラズシテ混合神經ナリ
 二、顔面神經麻痺ノ際他ノ顔面諸筋ガ完全麻痺ニ陥ル時モ頰筋ノミガ尙部分麻痺ニ止ルハ該筋ガ顔面神經ノ外尙三叉神經ヨリモ支配セラル、ノ證ナリ

討 論

會 員 塚 口 利 三 郎 君

頰筋神經ガ極メテ多型性ニシテアル時ハ非常ニ著明ナレドモ時トシテハ甚ダ幽微ニシテ之ヲ檢出スルニ困難スルコトアルハ日常吾人ノ遭遇スル所ナルガ其後ノ場合ニ該神經ガ果シテ他ノ如何ナル神經ニヨリ代償セラル、ヤヲ豫メ討査シ措カンコトハ神經分佈ヲ研究スルモノ、第一ニ顧念セザル可ラザル處ノ事項ニシテ殊ニ本神經ノ如キ吻合多キモノニ於テハ特ニ其必要ヲ看取スルナリ

口蓋形式ニ關スル臘製模型ノ供覽

會 員 井 上 通 夫 君

供覽セル平板模型製作法ニヨル臘製模型ニ於テ左右口蓋

板ノ後部ハ已ニ舌根ノ上ニアリ其前部ハ右側ニテハ舌ノ右側緣ニ沿ヒ垂下スルモ左側ノ口蓋板ハ已ニ舌上ニ轉位セリ演者ハ此胎兒ヲ以テ口蓋形成ノ所謂移行期ニアルモノトシ此他尙之レガ作成ニ供シタル實物ノ連續切片ヲモ示サレタリ。

談 話

會 員 鈴 木 文 太 郎 君

世人易々モスレバ解剖學就中系統解剖學ニ關シ殆ンド研究ノ餘地ナシト云フモソハ全ク謬見ニシテ今日我邦醫學ノ基礎タル解剖學ハ凡テ歐洲學者ノ所說ヲ傳承スルニ過ぎズ會々獨創ノモノアリト雖モ或ハ實習場裡ニ成ル統計カ或ハ支離ノ斷片タラザルナシ從テ我解剖學ニ於ケル研究事項ハ多クニシテソノ開拓スベキ地積ノ廣大ナル收穫ノ豐富ナルハ後進學者ノ大ニ意ヲ強フスルニ足ルモノトス只研究手段ニ對シ靜思熟考用意周到ヲ要スルヤ論ヲ俟タズ、予ハ今左ニ平素懷ケル疑義ノ一二ヲ示シ聊カ我學界ニ於ケル研究興味ヲ促サント欲ス。

第一 顔面筋ノ研究

元來顔面ハ個人的形貌ノ特徴ヲ示ス唯一ノ體部ニシテソノ原因ハ骨骼ノ影響スルコト尠ク主トシテ皮下脂肪ノ多寡ト顔面筋纖維ノ分束集散ノ狀況トニ在ルモノトス而シテ表情トハコノ顔面諸筋ノ活動ノ外皮表面ニ反映スルノ結果ニ外ナラズ

サレド各人相違ノ原理ニ就テ未ダ十分ナル説明ヲ得ザルハ究査手段ニ欠クルアルニアラザルヤ從來慣用ノ解剖刀及ビ鑷子ヲ以テシテハ現下ノ知見以上ニ出ヅルコト能ハザルヤ必セリ予ハ近時前頭筋、纖細筋、皺眉筋ノ一部及ビコレニ當該スル外皮ヲ通シ連續截片ヲ作製シ弱度ノ廓大ニ由リ筋纖維ノ走向起着ノ狀況ヲ探究セント試ミタリ若シコノ方法ニ據リ同一個人ニ就キ生時ノ狀態ト死後ノ所見トヲ對照シ更ニ數多ノ事例ヲ考較綜合セバ或ハ個人的顏貌ノ差違ヲ説明スルヲ得ンカコレ技術上不可能ナルニアラザルモソノ困難ハ只勞費ノ甚大ニアリテ一人一己ノ力ヲ以テシテハ概括的結論ニ達スルハ蓋シ容易ノ業タラザルベシ。

附記學會場ニ於テハ標本浩瀚ナルノ故ヲ以テ僅カニ二

三顯微鏡寫眞ヲ示セルニ止ム。

第二 前頭竇及ビソノ開口部

本邦人ノ前頭竇ニ就テハ既ニ國友博士ノ研究報告ヲ見ルモ是レヲ以テ盡セルニアラズ、特ニ前頭竇ノ存立ト共ニ往々篩骨蜂巢ノ一部(前頭蜂巢?)ノ前頭骨眼窩部ノ内外兩板間ニ蔓延スルニ就テハ一言ノ記述ヲ見ズ、予ハ三十個ノ頭骨中十一個ニ前頭竇以外ニ大小不齊ノ含氣性空處ノ存在ヲ認メ時ニハ兩者ノ判別ニ苦メリ又前頭竇開口部ハ三十一例中(左若シクハ右)十八回ハ之レヲ中鼻道ニ認メ十三回ハ弦月狀裂孔(又ハ篩骨漏斗)ニ開クヲ見タリ但シソノ狀況ニハ諸他ノ差等アルヲ免レザルモ詳細ハ茲ニ略ス上記ノ數ハ固ヨリ未ダ何等具體的結論ヲ容サズ、サレド予ハ斯ノ如キ事實ハ實地醫學上趣味ナキニアラズト信ズルコトヲ後進ノ研究ニ委セント欲ス。

右ニ關シ僅カニ數葉ノ描畫ヲ示セルモ茲ニ掲載ヲ省ク。

血管注入料ニ就キテ

客員 須藤 憲三君

演者ハ先ヅ顯微鏡検査ニ要スル血管注入料ノ具備スベキ